



平成19年(2007年)
6/20
第1138号

発行：小平市
編集：市民生活部
産業振興課
〒187-8701
小平市小川町二丁目
1333番地
☎042(341)
1211(代表)

市報 こだいら

都市農業基本構想 特集号

◇小平市ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> ◇電子メール info@city.kodaira.tokyo.jp

小平市第二次都市農業基本構想を策定しました

市民と共につくる農のある快適なまち こだいら

市では、都市農業の状況とそれを取り巻く環境の大きな変化に対応するとともに、平成18年3月に策定された「小平市第三次長期総合計画」を踏まえて、「小平市第二次都市農業基本構想」を策定しました。

策定にあたっては、検討機関として農業者、公募市民、農業団体、学識経験者などからなる都市農業基本構想懇談会を設置するとともに、農業者や市民に対してアンケート調査を行ったほか、農業団体などとの意見交換会を実施しました。

基本構想は、目標年度を平成28年度としており、今後の農業振興施策を進めるうえでの指針となるものです。



都市農業基本構想懇談会委員

飯田 幸一	小平市農業委員会 会長(副座長)
井出野 勉	東京都農業振興事務所農務課 地域計画担当係長
尾崎 一三	小平市観光農業協会 会長
粕谷 英雄	公募市民
金子 義和	公募市民
岸 源三	公募市民
北沢 俊春	東京都農業会議 業務部長
佐藤 純一	JA東京むさし 代表理事組合長
高橋 清一	小平市園芸組合 組合長
福島 和宏	JA東京むさし小平地区 青壮年部部长
淵野雄二郎	東京農工大学 農学部教授(座長)
前田 三郎	公募市民
水口 和恵	小平市消費者団体連絡会

※敬称略、50音順、所属は平成17年12月現在

基本構想の策定経過

【都市農業基本構想懇談会】

- 第1回 懇談会の目的及び進め方、農業の概要とアンケート調査について
- 第2回 農家意向調査結果の概要、農業振興施策の概要
- 第3回 農家意向調査及び市民意識調査の結果の検討
- 第4回 市の農業の課題と方向性の検討
- 視察 市内農地視察
- 第5回 農業の将来像と基本方向の検討
- 第6回 農業の将来像と計画の体系の検討
- 第7回 第二次都市農業基本構想素案の検討
- 第8回 第二次都市農業基本構想案の検討

意見交換会

(対象) 農業団体、消費者団体、環境団体など16団体
(日程) 平成18年6月～平成19年1月
(内容) アンケート調査結果の概要/各団体の活動、問題点や課題の整理/今後の活動方向、施策への要望など

アンケート調査(平成17年12月～平成18年1月)
(対象) 市内居住農家402戸
(内容) 農業生産・販売について
市民2,000人(20歳以上の男女無作為抽出)
(内容) これからの農業・農地について

基本構想の描く「こだいらの農業」

農地と住宅地が混在しており、農業や農業のもたらす環境を身近で感じることができること。

梨、ブルーベリーなどの特産品があること。

こだいらの農業の特徴

野菜、果樹、植木、花きなど多様な経営体があり、個人直売をはじめ販売形態も多様なこと。

地域の資源として小平グリーンロードと7つの駅があり、市外からも多くの人が訪れること。

将来像
市民との協働により、農業生産と農のある環境を活かすまちを目指し「市民と共につくる農のある快適なまち こだいら」と設定しました。

基本構想を具体化するために 6つの基本方針

① 農業生産と経営の支援

合理的な経営を目指すとともに、市の農業の中心となる農業者の育成、安全で安心な農産物の生産、地域内循環の仕組みづくりを進めます。また、農業団体の組織強化と相互連携を進めます。

主な取組み

- 農業経営体の育成
- 環境保全型農業の推進
- 農業団体の育成支援



⑤ 農地の保全と有効活用

都市農地はさまざまな要因で減少傾向にあります。農業生産だけでなく、防災や景観など多面的な機能を活かすことや、市民の利用による農地保全を進めます。

主な取組み

- 生産緑地の保全と確保
- 多面的機能の活用による農地保全
- まちづくりとの調整



② 担い手の育成

農業後継者や女性農業者などへの支援、新規就農者など新たな担い手の育成、市民などが農作業を手伝う仕組み(援農)の強化、農業に関心のある市民や団体などとの連携を図ります。

主な取組み

- 農業後継者の育成
- 女性農業者の支援
- 多様な援農の仕組みづくり



⑥ 農のあるまちづくりの推進

市の農業の実態を的確に把握し、農業振興施策を進め、評価を行うとともに、小平グリーンロードなど資源の活用や関係団体、機関など、さまざまな連携を図ります。

主な取組み

- 農のあるまちづくり推進会議
- 農業委員会との連携
- 小平グリーンロードの活用
- 市役所内における推進体制の整備と広域連携



③ 販売、流通の推進

直売方法の多様化や新たな販路の拡大、地場農産物活用の仕組みづくりを図ります。特産品を活用した観光、商工業との連携や、新たな特産品づくりを進めます。

主な取組み

- 多様な直売の推進
- 流通販路の拡大
- 地場農産物の活用



④ ふれあい農業の推進

市民が気軽に農業に触れることができるように、情報提供や交流の場づくり、多様な農業体験の場を提供し、農業者と市民との協働による取り組みを目指し、農業の活性化を進めます。

主な取組み

- 農業情報の発信と交流の場づくり
- 農業体験の推進



基本構想の推進体制

基本構想を実現していくには、農業者、JA、市民、民間団体、市など各種関係機関が連携した取り組みが重要です。

基本構想は、市が進行管理にあたり、「農のあるまちづくり推進会議」が施策の実施状況や評価を行うとともに、農業者、市民、各種団体などをつなぐ役割を担い、連携、協働により施策を展開します。

